

めあて  
文章を正しく読み取ろう。

一 「同じくらい」と「同じくらい」、「空揚げ」と「唐揚げ」、「ご利用くださいまして」と「ご利用いただきまして」・・・意味は同じなのに、語形の一部や発音、書き表し方が違うこのような言葉の違いを「言葉のゆれ」といいます。言葉のゆれの多くは、以前からあった言い方と、新しく生まれて広がりつつある言い方が、一つの時代に①きょうぞんしているものです。ゆれている言葉があると、どちらを使えばいいか迷うこともあるかもしれません。そのようなとき、多くの人たちの言葉の使い方や考え方を②ちようさによつて知ることが、一つの手がかりになります。

二 あるちようさから抜粋した例をもとに考えてみます。  
おいしいからたくさん a 食べられる b 食べれる

三 「食べられる」も「食べれる」も、どちらも「食べることができると」という意味を表します。「食べられる」は以前からある言い方で、動詞「食べる」に「そうすることができると」という意味を表す「られる」が接続した形です。「食べれる」は③ひかく的新しい言い方で、「食べられる」から「ら」を抜いた形をしているため、「ら抜き言葉」といわれています。「られる」は「そうすることができると」のほか、「ほかのものからそうされる」「④そんけいする」という意味や、「自然にそうなる」という意味も表します。  
「ら抜き言葉」は、「そうすることもできる」という意味だけ表します。このように意味がはっきりする便利さもあって、現在広まりつつある言い方ですが、規範的ではないとされています。

四 「イ」、「ら抜き言葉」の使われ方は、どのようになっているのでしょうか。

五 次のページの図1は、全国の十六歳以上の人口約二千人に、元来の言い方である「食べられない」と、「ら抜き言葉」の「食べれない」のどちらを使うかを尋ねた結果です。「食べられない」を使うと答えた人が六〇・二%、「食べれない」が三五・二%、「どちらも使う」が四・〇%で、「食べられない」が多数であることがわかります。「ら抜き言葉」を使うと答えた人は、全体の約四割です。

一 文章中の「ア」、「イ」に入る接続語の組み合わせとして最も適切なものを次の1から4の中から一つ選び、その番号を書け。

- 1 (ア 一方 イ ただし )
- 2 (ア さて イ ただし )
- 3 (ア 一方 イ それでは )
- 4 (ア さて イ それでは )

二 「言葉のゆれ」について筆者はどのように説明しているか。文章中から十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を書け。

三 文章中の①から④のひらがなを漢字に直して書け。

振り返り	①	一
		二
	②	初め
	③	
		終わり
	④	